

# あきらめないで、高齢者の「歩行障害」「認知症」「尿失禁」

## 特発性正常圧水頭症 なら改善するかもしれません



順天堂大学医学部附属 順天堂医院院長 新井 一氏  
平成11年より正常圧水頭症研究会世話人、日本脳神経外科学会理事、同会専門医認定委員長。

2015年には250万人に達すると予想される認知症患者。対策が叫ばれる中で、治療可能な「歩行障害」「認知症」として注目される「特発性正常圧水頭症」(iNPH)について、順天堂医院院長の新井一先生と医療ジャーナリストの伊藤隼也氏がお話ししました。

**65歳以上の高齢者の1.1%、約30万人もの患者が存在**

**伊藤** iNPHは一般にはまだあまり知られていませんが、実は患者数は多いそうですね。

**新井** 最新の調査<sup>※2</sup>では、65歳以上の高齢者の1.1%、日本の人口の高齢化率で換算すると約31万人にも上る患者さんがいる可能性があることが明らかにになりました。

**伊藤** 特徴的な症状は？

**新井** 歩行障害、認知症、尿失禁の3つです。脳全体から脊髄までの表面を循環する脳脊髄液の流れが悪くなることで、この液が過剰にたまり、脳を圧迫することにより、これらの症状が現れます。

**伊藤** 3つの症状を歳のせい、あるいは治らないものとあきらめてしまっている患者さんやご家族が多いのでは。しかし他の疾患の認知症と違い、iNPHは改善する。この病気が注目される大きな理由はここにあります。

**身体的な負担が少ないLPシヤント術**

**新井** 治療の基本は、たまった脳脊髄液を他の部位に流す「髄液シヤント術」というバイパス手術です。これまでは脳室と腹腔をつなぐ「VPシヤント術」が多かったのですが、最近では「LPシヤント術」が増えてきました。どちらも脳神経外科ではごく一般的な手術です。伊藤 そうは言っても、患者からすれば頭に穴を開けるVPシヤント術は抵抗があります。その点、LPシヤント術なら不安も体の負担も少

なくすみませぬ。治療の効果はいかがでしょうか。

**新井** 認知症や尿失禁ももちろんですが歩行障害の改善が特に顕著で、これによりトイレが間に合うようになり、尿失禁の問題が解決するケースも多数あります。要介護度が軽くなる方もたくさんいらして、ご本人はもちろん介護する家族の負担も軽くなります。症状が改善すれば介護保険や医療費の削減にもつながり、この点でもiNPHの治療は大きな意義があります。

**ガイドラインにより診断方法が確立**

**伊藤** 新井先生は、厚生労働省の難治性疾患克服研究事業における正常圧水頭症の研究班班長を務められた「iNPH診療ガイドライン」が発行されました。

**新井** これにより、3つの特徴的状態とMRIによる画像診断、髄液タッピングテストという診断方法が明確になり、医師の間でもiNPHの認知度が高まりました。

**伊藤** とところでiNPHは何科を受診すればよいのでしょうか。

**新井** 神経内科や脳神経外科で、最近では専門外来も増えてきました。シヤント術は70代、80代の高齢者も可能なケースが多いので、あきらめずに積極的に検査・治療を受けていただきたいですね。

**伊藤** 身近な家族の気づきも病気の発見のカギになりますね。症状に気づいたらすぐに検査を受け、高齢になってもQOL<sup>※4</sup>の維持を目指してほしいものです。



医療ジャーナリスト 伊藤 隼也氏  
医学ジャーナリスト協会会員。患者中心の医療実現のために全国の医療現場を精力的に取材。

！こんな症状は要注意

これらの症状が現れたら、専門医にご相談ください。

### 歩きにくさの症状

- 小刻みに歩く
- すり足で足が上がらない
- 不安定でつまずきやすい
- 不意に転ぶ(起き上がれない)
- 足が開きぎみに歩く

### 認知症の症状

- 集中力や意欲が低下
- 趣味などにも興味を示さない
- 一日中ぼんやりしている
- もの忘れ
- 呼びかけても反応が鈍い
- 表情が乏しくなった

### 排尿の症状

- トイレが近い
- 尿意を我慢できない
- 尿失禁

### ウェブサイトの特発性正常圧水頭症の詳細情報を発信

症状や診断、検査方法などを、詳しく、わかりやすく解説しています。体験談や専門医のいる病院も紹介。症状が気になる方はぜひご覧ください。

<http://www.inph.jp/>

※1/厚生労働省「2015年の高齢者介護」(平成14年9月末についての推計)より ※2/ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)メディカルカンパニー(協力:東北大学大学院高次機能障害学 藤沢明教授)「特発性正常圧水頭症(iNPH)の有病率に関する分析調査」(2009年8月)より ※3/腰椎から30ccほどの脳脊髄液を抜き、数日間患者の様子を観察 ※4/Quality of Life = 生活の質